

我が世の幸と耳うてば

天のさゝやき静なるか那

暮 秋

東 くめ子

人まつ虫の音

いつしかたえはて

招きし尾花の

袖さへ破れぬ

暮れ行く秋をば

とゞめんすべさへ

しら露おさそふ

庭の面さびしや

賤の女

敏 子

いつこも同し

文明の

光くまなき

御世なれば

都に遠く

へだつとも

まなぶに難き

事やある

何かなげかん

山青く

水清らけき

海原の

岩にくだくる

波のはな

ちりては結ふ

月かけの

わかぬながめを

朝夕に

友とたのみて

むらさもの

心の限り

學ばいや

心のかぎり

學ばいや

歌の曲

つ ね を

うつり行く世の

ならはせか

素樸のこころ

かのづから

清きおもひに

慰籍の

それもしほしの

夢のまや

かすかに響く

わかとき

天使のこと葉に

目さむれば

つれなき縁りの

いく年か

過ぎて果敢なし

人の夢